

巡回展「バードタッチング」実施報告書

記入日: 令和 6 年 11 月 22 日

館名・団体名	社会福祉法人 日本点字図書館
部署・担当者氏名	総務部 渡辺 明

1. 開催概要

開催期間

令和 6 年 5 月 22 日(水) ~ 令和 6 年 9 月 28 日(土)

開催日数: 53 日(休館日を除いた日数をご記入ください)

展示会場広さ(展示会場平面図があれば、別途添付してください)

約 37 m²

開催の様子(写真)

※頁数が増えてもかまいません

※関連イベントを実施した場合は、実施の様子の写真も入れてください。

会場の写真です。(左下が貴館からお借りした「触れるバードカービング」の展示風景です。)



2. 開催にあたって	
開催までのながれ（設営・撤去における対応スタッフ数）	
令和 6 年 5 月 9 日	展示物搬入
令和 6 年 5 月 10 日 ～ 令和 6 年 5 月 18 日	設営（ 4 人）
令和 6 年 5 月 22 日 ～ 令和 6 年 9 月 28 日	開催
令和 6 年 10 月 2 日 ～ 令和 6 年 10 月 4 日	撤去（ 2 人）
令和 6 年 10 月 4 日	展示物搬出
内容および運営上の工夫があればご記入ください	
企画全体としては、視覚障害者をメインとした来場者のため、すべて触れることが大きな特徴です。タッチカービングは貴館のダーウィンフィンチのほか、製作者の内山春雄氏から大きさの基準となる「ものさし鳥」を借り受けました。その他、剥製4点、頭骨模型5点、実物の巣4点などを展示し、実物の大きさが体感できる模型（皇帝ペンギン、オオワシ）を作成し、展示しました。頭骨模型ではそれぞれの鳥の餌の模型と共に、ダーウィンフィンチでは航海地図と地球儀を並べて展示しました。	
展示物に対する来場者の反応はどうでしたか	
企画全体の中では、フクロウを初めとする剥製が一番人気でした。さわることをメインにした企画では、本物の触感の印象が一番強かったものと思います。続いて多かったのは、ものさし鳥のタッチカービング。そして実際の羽という順番でした。ダーウィンフィンチは大きさの関係か並べたときの差異がみつけにくいためか順位はあまり上がりませんでしたが、頭骨模型同様、食べ物とくちばしの関係については来場者にご理解をいただいた感じでした。	
3. 広報について	
広報方法（チラシ等のデータがあれば、別途添付してください）	
ホームページ、メーリングリスト等インターネットを利用して紹介。また、視覚障害者向けの当館オリジナル音声広報誌「にってんデイジーマガジン」でも紹介。 チラシは添付をご参照ください。	

*この報告書やチラシ、写真は国立科学博物館の web にて紹介させていただきます。